

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数
---------	---	--------

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かんじやま・まいむ カンジヤマ・マイム	団体ウェブサイトURL kanjiyama.com	
	代表 藤倉 健雄		
制作団体所在地	〒 186-0001	最寄り駅(バス停)	JR中央線 国立駅
	東京都国立市北2-27-15		
電話番号	042-505-7074		
ふりがな 公演団体名	かんじやま・まいむ カンジヤマ・マイム	団体ウェブサイトURL kanjiyama.com	
	代表 藤倉 健雄		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1985年 8月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	代表 藤倉 健雄	正規団員 当団体の活動をその個人の主たる仕事として従事する団員 準団員 その個人の専門分野を当団体で活かし、当団体の目的達成のために従事する個人	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	村上ゆみ
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	藤倉健雄、豊田吉男(会計士)

本申請にかかる連絡先
(メールアドレス)

info@kanjiyama.com

<p>制作団体沿革</p>	<p>1985年、アメリカマイムの巨匠、トニー・モンタナロ氏に長年師事した藤倉健雄がアメリカ、メイン州にて結成したマイムの精鋭グループ。代表、藤倉健雄(米国ウィスコンシン大学Ph.D、教育演劇学博士、現早稲田大学)の掲げる「演劇的アプローチの教育的応用」をその使命とし、長い実践歴と理論的な裏付けを土台に、学校公演、文化会館主催事業、演芸場、研究、著作活動、NHK教育テレビ振付け、教育講演会、指導など幅広く行っている。また同時に応用マイムによる子どもの表現教育の研究、推進活動も精力的に行っている。</p> <p>最近の大学特別講義歴: 東京大学大学院、早稲田大学大学院、東京学芸大学、上智大学、明治大学、立教大学、関西大学、専修大学、桐蔭横浜大学、玉川大学、他</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>★1990年～「カンジャマ・マイムバラエティショー」発表。全国の学校、および子ども劇場親子劇場を中心に年間約140ステージ公演。</p> <p>★1993年～「黙れ！パントマイム」学校および文化会館などを中心に年間約130ステージ公演。</p> <p>★1996年～「俳句マイム: 僕の細道」発表。文化会館、高校、その他ジャンジャンなどの小劇場を中心に公演(年間約30ステージ)</p> <p>★2001～2006年、代表藤倉、ウィスコンシン大学院にて教育演劇学研究、その間、マディソン周辺の小学校を巡演し、演劇教育プログラムの実験と検証を繰り返す。</p> <p>★2007年～現在 特別英語教育プログラム「えいごとマイムのバラエティ」にて全国の小中学校を巡演(年間20ステージ前後)</p> <p>★2007年～現在「おしゃべりなパントマイム」にて全国の小中学校および高校を巡演。尚、「おしゃべりなパントマイム」は同タイトルで年齢別特別編成プログラムとして多彩なレパートリーを持つ。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>特別支援学校の芸術鑑賞会、病院内支援学校など多数公演実績あり。</p> <p>主な場所; 聖路加病院内特別支援学校、東大病院内こだま教室、東京都立駒込病院、沖縄小児発達センター、沖縄県立こども医療センター、信州大学医学部附属病院、その他、各地特別支援学校における当事業の巡回公演など。</p> <p>代表藤倉は在米中よりアメリカの聾啞団体などの要請をうけ、ワークショップや公演を行ってまいりました。</p> <p>また、医療デザイン大学主催、「第三回医療デザイン大学LIVE」にて「こころの表現授業」という遠隔授業の講師をつとめ、コロナの影響により、子どもや親子の間に起こっているモヤモヤの解消についてオンライン講義し、解決の方法を提案、指導いたしました。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/q1lXA1tQaD0</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>	
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 カンジヤマ・マイム】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	「おしゃべりなパントマイム」：君たちの無限の想像力と身体表現の魅力を楽しむ		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目 「おしゃべりなパントマイム」 ・おしゃべりで分かるパントマイム「漫才風マイム」 ・「早撃ちピエロ」 ・マイム体操 ・「おしゃべりな王様」 ・オノマトペマイム「四季」 ・「CM」 ・マイム体験講座 ・「バイオリン弾きとその息子」他 脚本、演出、振付、藤倉健雄 (内容は小学生～中学生などの対象によって一部適応作品の選択・変更で編成可能)		
	公演時間 約 80 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	
	該当事項がある場合	権利者名 郵政省簡易保険局 /NHK 他	該当コンテンツ名 楽曲 許諾確認状況 採択後手続き予定
演目概要	昨今CGに慣れた子供達ですが、人間の生身の身体表現力と可能性に触れる事によって日常生活がより豊かになり、コミュニケーション能力が確実に向上します。この舞台はまず、徹底的に訓練された演者の身体表現力で子供達を驚きと笑いで惹きつけ、そして子供達自身の中にある表現力や想像力にも気づいてもらいます。5～15分程度のオムニバス作品は、それぞれ世の中の面白さや人間の優しさ、出会い、別れなどが描かれ、それらは楽しい話芸と子ども達の客席での参加で有機的に繋がります。人類の古典芸能パントマイムとは何か、これから見る作品が子ども達の日常とどのように関連しているのか、また、どんな所が見どころなのかを、落語の枕詞のように、しかも教育的メッセージを盛り込んだ楽しい話芸で紡いでゆきます。		
演目選択理由	この数年間、日常に於いてマスクを装着したり、ディスタンスを取ったりといった制約の結果、子ども達は自分自身を顔や身体で表現することが減り、また相手の表情や身体の動きで、友達の気持ちを読むことができなくなってきたと言われます。この現状に対し「おしゃべりなパントマイム」は極めて有効に、子ども達に「身体表現の魅力」に気付かせるものです。生の訓練された身体による創造性に満ちた表現を駆使しながら、人生における様々な感情表現の面白さ、奥深さを知ることにより、人間に内在する凄さに憧れたいと願っております。代表の藤倉は「憧れの創造」こそが教育学の原点という信念です。子どもが何かに憧れる時に、自分からそれを学びたいという積極的な気持ちが起こります。身体表現に対する憧れを紡いでゆくのがカンジヤマ・マイムです。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	できそうでできない。でもやっていて楽しいし、面白い・・・そんな驚異的なデモンストレーションを通じて、最初は客席で座りながらできる動きを作品と作品の間に皆さんで経験して頂き、後半の一つのコーナーでは実際に何人かの希望者を募って舞台上で全身を使用したパントマイムのテクニックの醍醐味である、緊張と弛緩を体験してもらいます。実際に真剣にやると誰でもできる技に客席がどよめいて楽しみながら身体の可能性を学べます。そして身体でそれぞれの子どもたちの将来の夢を語ってもらいます。		
出演者	カンジヤマ・マイムA君(藤倉健雄) -マイム歴47年。教育演劇学博士。日本の教育演劇に関する英文博士論文で、アメリカ教育演劇協会より最優秀論文賞を受賞。全国での舞台活動の他、NHK「おかあさんといっしょ」の身体表現コーナー「パント!」の振り付けを始め、様々な教育番組の振付などを行う。独特の幕間の話芸は師匠と仰ぐ、永六輔さんとの20年以上の全国の旅に同行しながら身に着けた。 カンジヤマ・マイムB君(佐々木諒) - 多摩美術大学大学院修了。パントマイムをガーマルチョバとカンジヤマAに師事し、俳優業と共にマイム研鑽を重ねる。 カンジヤマ・マイムC君(渡邊ありさ) -幼少よりダンスを始め、映像、舞台でダンサーとして長年活動。パントマイムをカンジヤマAに師事し、2012年より本メンバーとして活動。 カンジヤマ・マイムC君(坂井くるみ) - 鎌倉女子大学児童教育学科にて子どもの為の創作劇や創作ダンスの研究に打ち込み、卒業後プロのミュージカル劇団に所属。カンジヤマAにマイムを師事し、現在はカンジヤマのメンバーとして活動。		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 3 名 スタッフ: 3 名 合計: 6 名	運搬	積載量: 1 t 車長: 4.5 m 台数: 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7時15分	7時15分～10時15分	10時半～12時	0分	12時～13時	13時
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	5日	0日	10日	5日	
	11月	12月	1月	計	50日	
	5日	5日	10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	2,3人(舞台上)、その他全員参加体験
		鑑賞人数目安	500人



舞台のサイズ
横幅7m × 奥行5m 必要です。

また、パントマイムは演者の足元が見えることが重要です。このため、舞台の高さ最低1m必要です。

演者の動き、そして皆さんの想像力で無限の世界が描かれるのがパントマイムの醍醐味です。



音響、照明効果の演出もそのお手伝いをします。

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



【公演団体名 カンジヤマ・マイム 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	120名
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>参加者上限人数120名ですが、全員が一堂に会してワークショップをするのではなく、1グループ20名程度(上限30名)のグループに分かれてワークショップを行います。</p> <p>まず、基本的なアイスブレイキングから始め、身体を解しながら、子ども達の開放度を観察し、臨機応変に対応します。教育演劇の基本である3プロセス(①想像し、②実際に動き、③振り返り、学びを深める)を段階的に経験しながら、身体と想像性のギャップを埋め、身体的理解を深めてゆきます。</p> <p>次に、様々なエチュードを楽しみながら、互いに見せ合います。例えば子ども達の大好きな場所(隠れ家や、部屋)を、最初は言葉と動きで友人を案内しながら、五感を使って想像したり、自分の感動体験を身体のタブロー(静止状態彫刻)にして見せる方法で、徐々に動きに対する恐怖感を取り除きます。参加者との対話を重んじながら身体表現の喜び、最終的には簡単な創作の結果を皆で吟味しあい、感想を共有します。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>上記の方法論は教育演劇の実践的方法論です。代表藤倉がウィスコンシン大学にて指導していた教育演劇クラスでは必ず小学生の実際の参加があり、その長年の経験上、直接動きから入ったほうが効果的な場合と、ある種の導入があった方が効果的な場合があるが故に上記の方法をとっております。まずは身体で表現することに慣れない子ども達の動きに対しての恐怖感、間違ったらどうしよう?という不安感を取り除く事から始めます。楽しさに適切な指導を加えれば最も効果的な「学び」が展開されます。パントマイムはこの目的に最も適した手段だと確信しております。なお、藤倉は現在も早稲田大学国際教養学部にてこれと同様のEducational Drama という科目を担当し、指導中であります。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>参加者上限人数120名ですが、全員が一堂に会してワークショップをするのではなく、1グループ20名程度(上限30名)のグループに分かれてワークショップを行います。この為、ワークショップの日は体育館(もしくは視聴覚教室など)1室だけではなく、グループが分かれて活動できるよう、グループ数の部屋を使えるようお願いします。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 **カンジヤマ・マイム**】

**本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫**

①本事業に対する取り組み姿勢

近年の子どもや若者達は便利で効率的な生活環境に慣れ親しみながら、その中で生活に密接したパソコン、携帯電話などの機器の影響を受けており、その結果、極端に身体性が乏しい状態の中で生活しています。例えば、CGなどの効果に慣れ切ってしまった児童たちは、パソコンのモニターやテレビの中でどれ程不思議な現象が起きてもさほど驚かないというのは事実であります。また、それと同時に人の生の身体の痛み、苦しみ、楽しみに素直に共感できる能力も未開発の状態の子どもが増えてきているように思われます。このままの状態では、本事業の目的である、発想力もコミュニケーション能力も健全に育まれるはずがありません。

これに対して、マイム芸とはCGなどの特殊効果などとは無縁かつ対象的な位置づけにあり、原始的な身体の可能性を極限まで追求したものであります。人間の肉体は根本的には不器用であり、そして無防備なものであります。しかし、これを訓練することにより、その結果開発された身体表現に人間は素朴な感動を覚えます。この生の肉体による饗宴を子ども達の目の前で展開し、これらの「ほんもの」に驚き、楽しみ、感動してもらう事により、生の人間の身体の可能性、素晴らしさに気づいてくれたらと心から願っております。

上記の目的の為、カンジヤマ・マイムの児童の為の舞台に対する取り組み姿勢は、常に一回一回の舞台の一瞬一瞬に、私達が何十年も情熱を傾けて取り組んできた「憧れ」を形にしなが、その人生に対する「ひたむきな姿勢」を子ども達に見て感じてもらいます。舞台上から提示される長年に渡り修練された動き、ポーズをみながら一つの芸に人生をかけた演者たちの息遣い、身のこなし、生き方、考え方、あるいは物語を肌で感じ、そしてその面白さ、楽しさを体感してもらう事が最重要事項と確信しております。そして、勿論、これら一連の演出は教育、応用演劇に精通したメンバーの理論的、経験的な裏付けを土台として成り立っており、メンバー達も毎回、舞台後にその成果を振り返りながら細かい修正を繰り返しております。以上に、カンジヤマ・マイムは一舞台一舞台が真剣勝負だと認識しながら、子ども達の心身の解放を切に願いながら活動しております。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

事前のワークショップ時には、何を置いても身体を動かして表現するという行為の「喜び」を知ってもらう事が最優先です。「最初の入門」として、なるべく緩やかに、恐怖心や不安を取り除きながら、徐々に子供達が自ら動き、動いて表現する楽しさや喜びを感じられるよう、段階的に指導してゆきます。そして、普段あまり触れることのない「パントマイム」という芸術を身近なものに感じ、本公演に対する興味を持てるよう導きます。この目的を効率的に遂行できるように、事前に個々の学校と綿密な連絡を取り合い、各々の学校の地理的、経済的、歴史的、文化的背景や条件などをできる限り把握し、必要に応じて対応策を話し合っており、特に最近では地理的、経済的条件により、文化的に国籍的に多様性溢れる学校が多く見受けられますので、それなりに選ぶ教育的テーマ、アクティビティーの種類、使用するフレーズなどの有効性を吟味しつつ行っております。

続く本公演では、舞台上で生き生きと楽しんでいるマイム芸人たちの姿を見て頂きます。そのエネルギーとメッセージを生舞台で肌で実感して頂きます。そのために、個々の作品内容に力を入れるのみではなく、その作品ごとのつなぎを、単に作品の理解を深めるための説明だけでなく、様々な創意工夫に満ちた演出にて「有機的」に繋いでゆく事に力を注いでおります。その為、その時その時の子ども達のエネルギーレベル、経験、空気にいつも敏速に対応しながら話芸、身体芸を駆使し続けております。

最後に、舞台を見て感じたり、経験した事をいつでも振り返りながら、更に自らも身体表現に勤しめるチャンスを各学校で可能にする為に、カンジヤマ・マイムの著作本、子ども達の為のマイム入門書「ザ・パントマイム」を公演校の図書室に寄付させて頂いております。過去に上演した多くの学校から、鑑賞後、子供達が皆パントマイムを真似て楽しんでいる、というのを耳にします。そしてその子供達の中からさらに興奮冷めやらず興味が広がった子達は、自分達が観たカンジヤマ・マイムが自分達向けに書いた本に非常に興味を持ち、沢山の児童が本を読んでくれているという事です。